

- ①家庭と連携しながら基礎・基本を身に付けさせる家庭学習の確立
- ②様々な場面でうまく自分の思いや考えを表現し伝える力を身に付けさせる授業等の取り組み

| | |
|---------|--|
| 学力向上推進員 | 委員 |
| 十川富博 | 山田匠(校長) 住友久之(教頭) 山野井貴子(研修主任, 進路指導主事) 原田節子(1年主任) 明石浩二(2年主任) 平島徳子(3年主任) 天野和美(人権教育主事) 土井友美(特別支援コーディネーター) |

(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|--|--|---|---------|------|-------------|
| よさ 朝読、朝学の時間を大切に学習活動に取り組んでいる。漢字ノート・英語Bノート・自主勉強ノートに取り組み学力の定着を図っている。 | ①各教科の提出物や家庭での自主学習に毎日取り組み、基礎的・基本的な学力が付いている。 ②継続的に朝の自主学習などを通して基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 | ①全国学力テスト・県ステップアップテストで平均正答率を県平均以上にする。また、無解答を減らす。 ②各教科の家庭学習の提出率を100%にする。 | | | |
| 課題 習熟度の差が大きく、二極化している。家庭学習の習慣が不十分で学力の定着しない生徒にいか | 具体的方策(教員の取組) ①各教科において継続して繰り返し確認テストを行なう。 ②授業の始めに「本時のめあて」を提示して学習内容に意識をもたせ、またICTなどを取り入れて、生徒に興味・関心をもたせ、分かりやすくやる気もてる授業を目ざす。 | 取組指標 ①各教科の授業だけでなく朝学習の確認テストもする。 ②全職員、授業の始めに「本時のめあて」を提示する。また、ICTを活用する研修・研究授業を行なう。 ③月1回コラムの視写又は週末課題を実施する。 | | 評価 | 次年度における改善事項 |

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|---|--|---|---------|------|-------------|
| よさ 全校生徒集会・ふれあい人権学習会などでは、課題に対して真剣に考え、発表者の意見をしっかりと聞き自らも発表しようとする態度を身につけている。 | ①様々な事象について深く考え、自分の意見や思いを表現したり、物事を論理的に筋道を立てて考え、的確に判断できる。 ②読解力や表現力を高めるために毎日読書をする習慣を身につける。 | ①授業や集会等で自分の意見を発表できる生徒を70%以上にする。 ②読書記録カードを記入し、毎月1冊以上の本が読める。 | | | |
| 課題 授業・テストなどでは自分の考えや意見に自信がもてず、表現する力や伝える力に欠けるところがあり、自主的に発言するのが苦手な生徒が多い。 | 具体的方策(教員の取組) ①学習活動にアクティブ・ラーニングを取り入れ、自分の意見や思いを表現する場面をつくる。 ②朝の読書の確保と生徒集会や専門委員会など他人の意見を聞いたり意見交換したりする機会を増やす。 | 取組指標 ①1分間スピーチでまとめる力・表現力を育てる。また、行事ごと感想を書かせ、原稿用紙の9割以上書けるようにする。 ②本の読み始めと終わりを読書記録カードに記録させる。 | | 評価 | 次年度における改善事項 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況 | 具体的目標(めざす子供の姿) | 成果指標 | 中間期の見直し | 取組状況 | 達成状況 |
|--|---|---|---------|------|-------------|
| よさ 授業準備ができていて、落ち着いた態度で授業に取り組む。各教科の授業を大切にしようとする姿勢が見られる。 | ①家庭学習を計画的・意欲的に行ない、学習計画を自主的に立てられる。 ②ワークやテスト問題で、分からない問題に対しても粘り強く考える。 ③授業時間(50分間)を無駄にしない。 | ①「毎日の足跡」の記録を振り返ることで自主的に時間帯や時間・内容を改善しようとする。 ②自主勉強ノート提出率を100%にする。 ③授業開始1分前には着席し机の上に準備をしている。 | | | |
| 課題 自主学習に対する取り組み方が分からず、家庭学習の習慣が身につけていない生徒がおり、授業で学んだ知識・技術が十分にいかせていない。 | 具体的方策(教員の取組) ①家庭学習時間を「毎日の足跡」に記録させ、振り返らせることで、家庭での学習への取り組み方を考えさせる。 ②友達の自主勉強ノートや学習に対する取り組み方を紹介する。 ③教師はチャイム前に教壇に立ち学習規律を守らせる。 | 取組指標 ①年2回三者面談で「毎日の足跡」をもとに保護者とともに家庭学習について考える。 ②学期に1回手本となる友達の自主勉強ノートを参考に学習の質を高める機会をもつ。 ③生徒会や学級の委員長を中心に学校全体で呼びかけ、学習規律を確立する。 | | 評価 | 次年度における改善事項 |

平成30年度 学力向上ロードマップ

